



令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

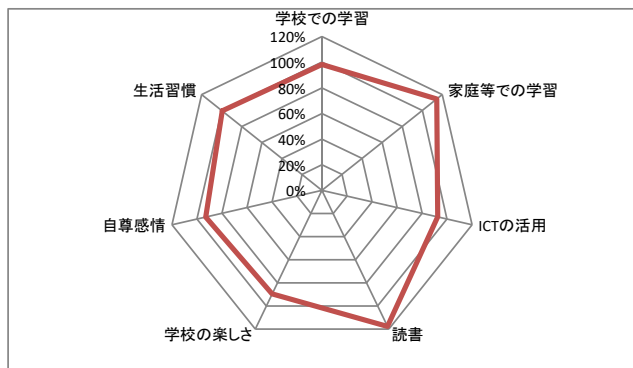
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	正答率は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」ともに、全国平均を上回った。「話すこと・聞くこと」の正答率が特に高い。「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」の問題において、全国平均を下回った。	上回っている
算数	正答率は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」ともに、全国平均を上回った。「数と計算」「図形」の正答率が特に高い。全ての領域において、全国平均を下回る領域はなかった。	上回っている
理科	正答率は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」ともに、全国平均を上回った。「粒子を柱とする領域」の正答率が特に高い。全ての領域において、全国平均を下回る領域はなかった。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、どれくらいの時間、読書をしますか。」等の読書に関する項目が、全国平均を大きく上回った。
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、どれくらいの時間、勉強をしますか。」等の家庭学習に関する項目が、全国平均を上回った。
- ・「自分にはよいところがある」等の自尊感情に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を大きく下回った。
- ・「学校に行くのは楽しい」「友達と協力するのは楽しい」の質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を下回った。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ 調べ学習や発表ツール、ドリル学習等で、積極的にGIGA端末を授業に活用し、自分で課題解決を図れるようにしていく。
- ・ 1時間の授業で、学習ノート(ワークシート)等に自分の考えを書かせる時間や話し合う活動の時間を確保するとともに、感染症予防を徹底しながら、場や形態を工夫して児童が説明する場面を増やす。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ たてわり活動や委員会活動等、児童が活躍できる場を多く設定し、その様子を学校通信やホームページ等で家庭へ伝え、家庭でも児童をほめ、認められるようにしていく。
- ・ 学校行事等を通して、児童の活躍を認め、児童が達成感を味わうことで、自信を持つことができるようにする。